

製品名: IQGAP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12720**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	190kDa

抗原情報

遺伝子名	IQGAP1
別名	IQGAP1; KIAA0051; Ras GTPase-activating-like protein IQGAP1; p195
遺伝子 ID	8826.0
SwissProt ID	P46940
免疫原	抗血清はヒト IQGAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 247-296

背景

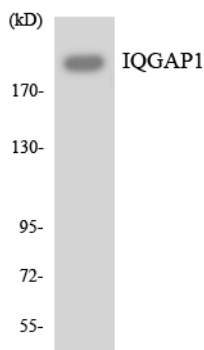
IQ モチーフ含有 GTPase 活性化タンパク質 1(IQGAP1) Homo sapiens この遺伝子は IQGAP ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は4つのIQドメイン、1つのカルポニン相同ドメイン、1つのRas-GAPドメイン、および1つのWWドメイン

を含んでいます。細胞骨格の構成要素、細胞接着分子、およびいくつかのシグナル伝達分子と相互作用して、細胞の形態と運動性を制御します。このタンパク質の発現は、2つの胃癌細胞株における遺伝子増幅によって上方制御されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、ドメイン：領域 C1 および C2 は、Ser-1443 のリン酸化状態に応じて、ヌクレオチドを含まない CDC42 と相互作用するか、または相互作用することができます。Ser-1443 がリン酸化されていない場合、C1 と C2 は相互作用し、ヌクレオチドを含まない CDC42 の結合を防ぎ、GTP 結合型 CDC42 の結合を促進します。Ser-1443 のリン酸化は C1 と C2 の相互作用を阻害し、C 末端の構造を開き、ヌクレオチドフリーの CDC42 が C1 と C2 の両方に結合して隔離することを可能にする。機能：活性化 CDC42 に結合するが、その GTPase 活性を刺激しない。カルモジュリンと会合する。細胞膜におけるアクチン細胞骨格の再編成に入力シグナルを連結する多分子複合体の組織化のための組み立て足場として機能する可能性がある。神経突起の伸長を促進する可能性がある。PTM：PKC による Ser-1443 のリン酸化は C1 と C2 の相互作用を阻害し、ヌクレオチドフリーの CDC42 の結合を可能にする。Ser-1443 のリン酸化は、神経突起伸長を促進する能力を高める。類似性：CH (カルボニン相同) ドメインを 1 つ含む。類似性：Ras-GAP ドメインを 1 つ含む。類似性：WW ドメインを 1 つ含む。類似性：IQ ドメインを 4 つ含む。サブユニット：CDC42 と相互作用する。GTP 結合状態およびヌクレオチド非結合状態の IQGAP1 との相互作用が実証されている。RAC1 と相互作用する。RHOA とは相互作用しない。TSG101 と相互作用する。組織特異性：胎盤、肺、腎臓で発現する。心臓、肝臓、骨格筋、膵臓でも低レベルの発現が認められる。、

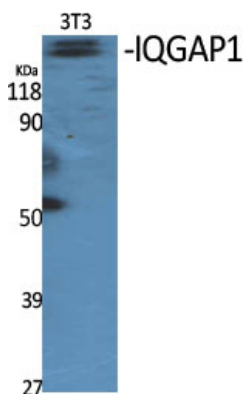
研究分野

Adherens_Junction;アクチンと細胞骨格を制御します。

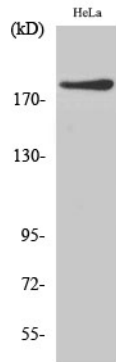
画像データ



IQGAP1 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した IQGAP1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



IQGAP1 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析